

Rotary International District 2570
GOVERNOR's Monthly Letter

2025-2026年度 Vol.10

ガバナー月信

4

月号
2026.4.10



川越氷川神社裏の桜

📍 川越氷川神社
(川越市宮下町 2-11-3)



Rotary

**UNITE
FOR
GOOD**

第2570地区ガバナー

レアアースを巡る 環境問題と日本の将来

Rare Earths: Environmental Issues and Japan's Future Prospects

2025-26年度 国際ロータリー
第2570地区 ガバナー

相原茂吉 *Aihara Mokichi*
(川越RC)

レアアースは産業のビタミンに例えられる。半導体、スマホ、電気自動車、太陽光パネル等あらゆるところで使われる。しかしレアアース生産の70%、精錬の90%が中国に押さえられている。中国は気に入らない相手にレアアース輸出を止める。レアアース供給が止められれば、相手国の産業は大打撃となる。

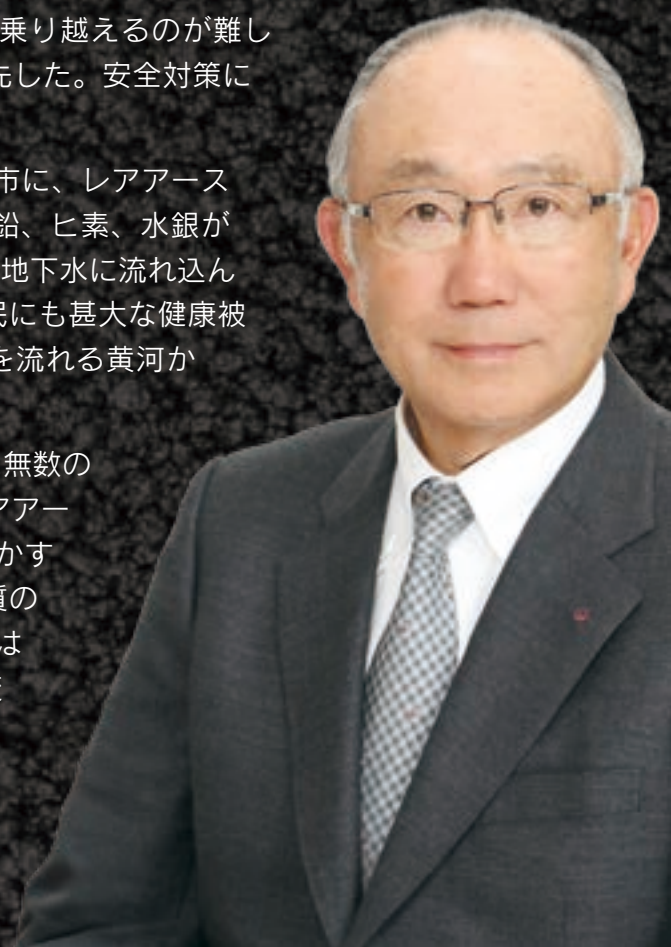
長年中国に首根っこを押さえられていた日本だが、南鳥島近海に巨大なレアアース海底鉱床を発見した。鉱床は6000メートルという海底にあり、取りだしには困難が予想される。しかし日本は南鳥島レアアース開発に全力で取り組み始めた。今回は「環境」の観点から、レアアース問題を考えてみたい。

レアアース産業は元々米国が中心だった。しかしレアアースは精錬の過程で有害物質が発生する。米国は公害規制が厳しく、製造コスト高騰に苦しんでいた。そこに中国が現れた。1980年頃のことである。中国はレアアース産業を国策として進める方針を固めた。「中東に原油あり、中国にはレアアースあり」のキャッチフレーズも生まれた。中国がレアアースの増産に踏み切ったことで、米国は中国から製品を輸入する方針に転じた。

共産党が支配する中国は国家の大方針が決まると、一斉にその方向に舵をとる。1980年から始まったレアアース生産は急激に拡大していった。しかしレアアースの含有量は鉱石のほんの一部だ。レアアース鉱石には重金属やトリウム、ウラン等の放射性物質が含まれている。米国がレアアース精錬から撤退したのは環境問題を乗り越えるのが難しかったからだと思う。一方中国は環境問題より、増産を優先した。安全対策には配慮せず、大增産に踏み切ったのである。

レアアース生産の2/3を占める内モンゴル自治区・包頭市に、レアアース精錬で発生する粉塵が舞い散った。重金属にカドミウム、鉛、ヒ素、水銀が含まれる。更にトリウム、ウランの放射性物質も雨風と共に地下水に流れ込んだ。その結果牧草は枯れ、家畜は次々と流産した。地域住民にも甚大な健康被害が発生した。井戸水は汚染のため使えなくなり、包頭市を流れる黄河から汚染物質は下流域に拡大した。

中国南部江西省にもレアアース鉱山がある。ここでは山に無数の縦の穴を掘り、そこに大量の硫酸と塩酸を流し込んだ。レアアースの純度を高め、効率的な回収を行うためである。山を溶かすほどの大量の硫酸や塩酸を流した結果、重金属と放射性物質の汚染が拡大した。地域では農産物が育たなくなり、家畜には大量の奇形種が生まれた。江西省を流れる長江はどす黒く変わり、魚が大量に浮き上がった。井戸水を生活の用水とする人々に、ガンが多発するようになった。ガンの発生が通常の100倍に及ぶ村は、いつしか“ガン村”と呼ばれ



るようになる。中国名では“癌症村”と書く。「ユーチューブ {死因の8割が癌} を参照」

1980年にレアアースの大増産に踏み切ってから、この状況は2010年頃まで続いた。30年である。被害が余りに酷くなり、30年経ってやっと中国政府は事実を認めた。そして2010年頃から安全対策に取り組みだした。この頃中国政府が正式に認めた“癌症村”は217村に及んだ。産業勃興の初期に公害問題を起こす例は多い。日本でも田中正造翁が命懸けて取り組んだ足尾銅山の公害問題や、熊本県の水俣病等が発生している。日本と比べ中国は規模が大きく、そのうえ放射性物質が含まれていた。ウラン238の半減期は4億年である。

2010年代半ば、テレビ東京が被害を受けた村を取材した。その後中国政府は公害問題の方針を大転換した。公害問題は解決したとしたのである。“癌症村”という表現は禁止された。現在中国内でこの言葉を使ったら、ややこしい問題になる危険がある。テレ東も当時の取材レポートを放映すれば、大きな問題を起こしかねない。同局の北京特派員はスパイ容疑を受けるかも知れない。中国での取材も制限されるだろう。

1980年頃から国を挙げて取り組んできたレアアース大増産は、中国政府の有力な切り札となった。世界の生産の70%、精錬の90%以上を握っている。トランプ大統領が中国との交渉で歯切れが悪いのは、レアアースを押さえられているからだ。米国経済を牽引するグーグル、アップルなどのGAFAやテスラもレアアースがなければ生産が難しくなる。米国経済に大きな損害がおきる。

長い時間をかけ、国土を痛めてまで育てあげたレアアース事業。中国を大国の地位に押し上げたレアアースの独占が脅かされるのは許せない。日本の南鳥島近海にレアアースが発見されると、中国政府は日本潰しに動いた。南鳥島は「岩」であり「島」ではない。だから日本の領有権は認められないと主張した。これには無理があり世界から賛同を得られないと、次は威嚇行動に出始めた。昨年6月空母「遼寧」を南鳥島近海に派遣、艦戦機船団の大規模な訓練を行った。さらに空母「山東」も太平洋で訓練を行い、南鳥島のレアアース開発は何時でも阻止できると威嚇してきた。親中派議員を通じた日本政界工作も活発化している。

中国はなぜ日本のレアアース開発を阻止したいのか。その理由は南鳥島レアアースの特徴にある。埋蔵量は分っているだけで1800万トンと、日本の需要を数百年分賄える。南鳥島レアアースは含有量が高く、放射性物質が含まれない。このため精錬は毒性のない希塩酸で可能と言われる。中国のような硫酸や塩酸の必要がないため環境負荷も少ない。まさに奇跡の鉱床なのだ。

中国の開発妨害が懸念されるなか、日本政府は素早く動いた。南鳥島開発を日米共同開発事業としたのだ。南鳥島の重要性は尖閣列島とは比較にならない。中国は尖閣とは比較にならない攻撃をしてくるだろう。これに対抗するため、日本政府は米第7艦隊（基地：横須賀）に南鳥島を守らそうとしているのだ。世界最強の第7艦隊が相手では、さすがの中国も手を出しにくい。

中国はダンピングで他国の産業を潰してきた。レアアースも政治的な判断でダンピング販売されると、南鳥島事業は赤字となる。開発も進まない。これを防ぐため米国は買取最低価格を設定すると決めた。「国家の安全はコストに勝る」と判断したのだ。安全保障に係る物資は自由競争ではなく、安定供給を優先する。お陰で南鳥島のレアアース開発は、中国のダンピングから守られそうである。

資源小国の悲哀に泣かされてきた日本に、大きな変化が訪れている。海洋開発が可能となれば、日本に資源大国となる道が拓かれるのだ。南鳥島だけの排他的海域は43万km²あり、日本の陸地面積（38万km²）に匹敵する。国民が選挙で国益を守る政治家を選び、その行動を監視する。一方、民間企業は海洋利用の技術開発に全力で注力する。これが車の両輪となれば「海洋大国・日本」に繋がる可能性が高まる。そうなれば日本の未来は、とてつもなく明るいものとなるだろう。



第3グループ 都市連合会 (IM) 報告

第3グループIMは、2月25日に開催され、式典及び基調講演は所沢市民文化センター・ミュージズ小ホール「キューブホール」、懇親会は同ミュージズ展示室を会場として行われ、第3グループ・10クラブ総勢376名のうち、式典には228名、懇親会には199名が参加し、盛会となりました。

本年度のテーマは「誰かのために生きる力～奉仕の理想が導く平和への道」と掲げ、奉仕の精神と平和への道筋をあらためて確認する機会となりました。

式典では、物故会員への黙禱に続き、開会点鐘、国歌斉唱、ロータリーソング斉唱が行われ、参加者全員で歌声を合わせ、会場が一体となり、続く歓迎の言葉は内野忍所沢西RC会長より、実行委員長挨拶は本橋正夫氏より行われ、主催者挨拶として高橋ガバナー補佐が出席者への感謝と本IM開催の意義を述べました。

来賓挨拶では相原ガバナーから励ましの言葉を頂き、倉片直前ガバナー補佐には感謝状と記念品が贈呈されました。

また次年度ガバナー補佐の紹介が行われ、第3グループ東・野藤ガバナー補佐エレクト、第3グループ西・大河内ガバナー補佐エレクトが挨拶し、次年度に向けられた決意が述べられました。

基調講演では佐藤正久氏が「地域を守る力とは・・・地域と国家をつなぐ安全保障の役割」をテーマに講演され、地域社会と国家安全保障の関係についてわかりやすく解説され、参加者一同大きな示唆を得る機会となりました。

式典・基調講演の講評は相原ガバナーより行われ、今後のグループ活動への期待が述べられました。

その後、場を懇親会場ミュージズ展示室へ移し、水村パストガバナーの乾杯で開演し、参加者同士の交流が和やかに進みました。

途中退席する方も少なく、終始活気ある雰囲気の中で親睦が深まり、最後に「手と手をつないで」を斉唱し、参加者全員で結束を再確認しました。

今回のIMは、奉仕の理念をあらためて共有するとともに、会員相互の絆を深める有意義な機会となりました。



第4グループ 都市連合会 (IM) 報告

2月21日、第4グループは、本庄市児玉文化会館セルティにおいて、8つのクラブによる最後のインターシティーミーティングを行いました。

本年度第4グループのテーマを「温故創新」と掲げ、強いクラブ作りには伝統や理念を継承しつつ新しいことに挑戦し、実行することが重要だと考えました。そうした活動情報をIMで共有し、お互いが繋がりながら個性を発揮できる場にしたいと考え、プログラムに「合同クラブ協議会」を取り入れました。

約1時間にわたり8クラブの会長に、それぞれ映像を使いながらクラブの活動報告をしていただきました。単なるクラブ紹介ではない発表は、会場にいるロータリアンに響いたことでしょう。相原ガバナーによる講評を頂き、その成果を讃えて頂いたことは、更なる活動の励みになりました。

今年度の記念事業の目玉としては「能登復興支援」を立ち上げました。

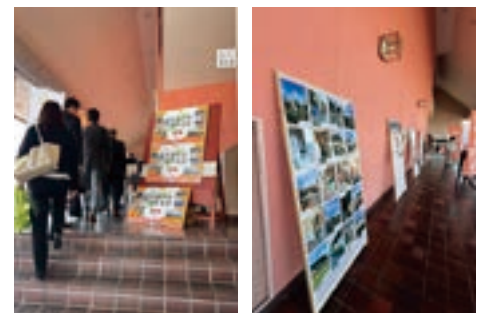
それはIMを担当した岡部ロータリークラブの会員と輪島ロータリークラブとのご縁がきっかけでした。悲惨な現状を耳にして、岡部ロータリークラブからは多くの会員が3度にわたり輪島市へ訪問・視察させて頂き実際の現状を目の当たりにしてきました。会合を重ね、まずはクラブとして地元での募金活動に励み、そして今回のIMにあたり、第4グループの全会員の皆様からも寄付を募り、復興事業のシンボルとなる「輪島市朝市組合」へ義援金をお届けいたしました。

会場では、その時の様子を映像にしたものを視聴していただきました。

今後は朝市以外にも目を配り、社会的弱者である子供やお年寄りに寄り添えるよう、地元の皆様のお力添えを頂きながら、活動を続けていく所存です。

よろしければIMの様子がYouTubeに上げてありますので、是非ご覧ください。

「2025—26年度RI2570地区第4グループIM」で検索
第4グループガバナー補佐 橋本和行



第5グループ 都市連合会 (IM) 報告

2026年2月23日 熊谷スポーツホテルパークウイングにて国際ロータリー第2570地区第5グループのインターシティミーティングが開催されました。

心躍るロータリーヘーラーニングからの実践をテーマに近隣各クラブより多くの会員が集結、参加クラブの紹介、来賓の挨拶が行われました。

第二部の基調講演では講師 宝井琴鶴様をお迎えして日本のロータリーの礎を築いた男、米山梅吉物語、という内容で行いました。日本初のロータリークラブ（東京 RC）を創立した米山梅吉の生涯を、講演独特の語り口で描写、関東大震災後の復興支援や、米山記念奨学会の源流となる彼の献身的な奉仕の精神が紹介されました。

記念講演を通じ、以下の点について深く学ぶ事が出来ました。

1) 無私の奉仕（無我の奉仕）

米山梅吉が唱えた「善き事は、その報いを期待せずに行う」という精神は現代の私達が忘れがちなロータリーの原点であることを再認識しました。

2) 先駆者としての覚悟

混沌とした時代にロータリーの種を撒いた氏の情熱に触れ、地域社会の課題解決に立ち向かう勇気をいただきました。

第3部の懇親会

懇親会はパストガバナー鈴木秀憲様の乾杯でスタート、アトラクションとして武蔵越生高等学校、和太鼓部、青龍のすばらしい演奏が有り、またベリーダンスで異国情緒あふれるリズムで会員を魅了していただきました。

最後に参加者全員による合唱「手に手つないで」を合唱し、IMを締めくくりました。

第5グループガバナー補佐 渡邊藤男



ガバナー公式訪問

1/21
(水)

熊谷 R C

会長 松崎 邦夫
幹事 井上 浩

2025-2026 年度国際ロータリー第 2570 地区ガバナー相原茂吉様、ガバナー補佐渡邊様、地区副幹事高橋様3名の方々をお迎えし、公式訪問例会を開催いたしました。

例会前のガバナー懇談会には入会 3 年未満の新入会員 5 名が参加し、和やかな雰囲気での懇談会が行われざっくばらんにロータリーについて楽しいムードでお話をお伺いいたしました。

例会ではガバナーからの故坂口氏のお人柄についてのお話があり、卓話ではロータリークラブの歴史やその活動のことについて動画を交えて詳しくお話くださりました。参加したメンバー全員が改めてロータリークラブについて学ぶ良い機会となりました。滞りなく例会が終了した後は楽しい笑顔とともに記念撮影いたしました。



ガバナー公式訪問

2/18
(水)

加須 R C

会長 米山 洋平
幹事 福島 秀年

2 月 18 日 (水)、相原茂吉ガバナー、渡邊藤男第 5 グループガバナー補佐及び近藤武弘地区副幹事の 3 名をお迎えし、公式訪問が行われました。

相原ガバナーからは、先日逝去された坂口孝ガバナーがロータリーに対しいかに熱い思いを抱いていたか、また長年にわたりいかにロータリーに貢献して来られたかを語っていただき、「強いクラブを作る」ことの重要性を教えてくださいました。

後半は、相原ガバナーが作成された DVD を視聴し、ご尊父様の壮絶な戦争体験や、同じ価値を共有できる友人がいることの大切さ、そしてロータリーで仲間を作ること、クラブを活性化させることの意義について映像を通して改めて学ぶことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。





表彰 Award Collection

PHF ボール・ハリス・フェロー MPHF マルチプル・ボール・ハリス・フェロー PHS ボール・ハリス・ソサエティ BF ベネファクター
 MD メジャードナー 米山 米山功労者 米山M 米山功労者マルチプル 米山MD 米山功労者メジャードナー

PHS x1
 川越

 池袋 賢一

PHS x1
 川越

 馬場 常正

MPHF x4
 川越

 水村 圭司

PHF x1
 川越

 荻原 之彦

PHF x1
 川越

 塩野 貴一

PHF x1
 川越

 山田 哲也

MPHF x2
 飯能

 中里 忠夫

MPHF x2
 飯能

 川口 浩

MPHF x2
 本庄

 五十嵐 敦子

MPHF x1
 本庄

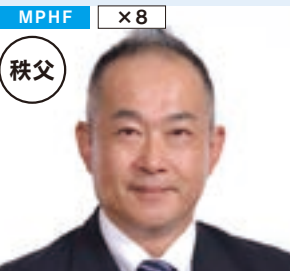
 巴 高志

PHF x1
 本庄

 永井 保之

PHF x1
 本庄

 鈴木 純

MPHF x8
 秩父

 原島 生慈

米山 x22
 川越

 馬場 常正

米山M x11
 川越

 相原 茂吉

米山M x9
 川越

 石井 成人

米山M x6
 川越

 今泉 清詞

米山M x6
 川越

 小杉 國武

米山M x5
 川越

 吉澤 徳安

米山M x4
 川越


 水村 圭司



新会員紹介

New Member Introduction

氏名 **井上 信明** (川越)
 入会年月日 2025年7月8日
 勤務先 埼玉医科大学総合医療センター
 役職 教授
 生年月日 1970年3月4日
 紹介者 坂口 孝、西川孝博、野溝 守



氏名 **長瀬 憲** (川越)
 入会年月日 2025年7月8日
 勤務先 (株)三井住友銀行 川越法人営業所
 役職 所長
 生年月日 1976年4月7日
 紹介者 岩堀和久、神谷 勉



氏名 **長澤 美智子** (川越西)
 入会年月日 2026年3月4日
 勤務先 (株)アカマツ
 役職 代表取締役
 生年月日 1969年1月18日
 紹介者 久保田 徹



氏名 **柳田 淳志** (入間南)
 入会年月日 2026年1月13日
 勤務先 (株)ホンダカーズ埼玉西
 役職 保険外商部長
 生年月日 1956年7月17日
 紹介者 石田徳一



氏名 **大久保 光信** (本庄)
 入会年月日 2026年1月29日
 勤務先 宗教法人 般若寺
 役職 住職
 生年月日 1970年9月10日
 紹介者 波澤健司



氏名 **今井 智也** (熊谷)
 入会年月日 2026年2月27日
 勤務先 株式会社 JTB 熊谷支店
 役職 支店長
 生年月日 1975年1月22日
 紹介者 前嶋修身、染谷政示



会員数

[2026年2月]

グループ	クラブ名	会員数				
		2025年度初め	2026年2月末	対年初増減	2026年2月末女性会員	M Y R C登録率%
第1グループ	川越	103	102	-1	5	45
	東松山	23	20	-3	1	40
	小川	4	3	-1	1	0
	坂戸	31	33	2	1	30
	越生毛呂	7	7	0	1	1
	川越小江戸	14	14	0	2	50
	川越西	31	36	5	6	50
	鶴ヶ島	29	30	1	2	62
	川越中央	23	22	-1	0	32
	坂戸さつき	18	21	3	4	57
	東松山むさし	33	34	1	3	38
小計	316	322	6	26	37	
第2グループ	朝霞	22	23	1	2	50
	志木	48	50	2	5	54
	富士見	40	40	0	0	48
	新座	25	26	1	3	23
	和光	4	5	1	1	80
	新座こぶし	10	10	0	3	70
小計	149	154	5	14	54	
第3グループ	入間	39	40	1	1	50
	所沢	68	70	2	6	32
	飯能	68	68	0	1	42
	新所沢	19	19	0	2	63
	日高	22	22	0	4	32
	所沢西	37	40	3	4	31
	新狭山	12	12	0	0	92
	所沢東	47	48	1	2	30
	入間南	39	44	5	1	54
	狭山中央	19	18	-1	5	37
小計	370	381	11	26	46	
第4グループ	深谷	56	59	3	13	45
	本庄	97	113	16	13	33
	秩父	54	54	0	1	50
	寄居	34	33	-1	1	64
	岡部	19	20	1	2	70
	深谷東	74	73	-1	0	40
	皆野・長瀬	8	8	0	0	25
	深谷ノース	28	32	4	5	48
小計	370	392	22	35	47	
第5グループ	熊谷	97	97	0	4	50
	行田	52	53	1	5	15
	羽生	36	42	6	4	19
	加須	22	24	2	1	13
	熊谷西	6	6	0	0	50
	行田さくら	52	50	-2	4	67
	吹上	5	5	0	0	80
	熊谷籠原	27	27	0	0	41
	熊谷南	26	27	1	2	44
	小計	323	331	8	20	42
区地	合計	1,528	1,580	52	121	41

スケジュール

4月

- 5 (日) 新規米山オリエンテーション
第1回カウンセラー会議
- 11 (土) 財団第4回オリエンテーション
- 12 (日) 青少年交換オリエンテーション
- 17 (金) クラブ活性化セミナー
- 18 (土) クラブ活性化セミナー
- 19 (日) クラブリーダーシップ
ラーニングセミナー
- 25 (土) 2GIM

5月

- 2 (土) 3502 地区大会
- 3 (日)
- 9 (土) 財団第1次選考試験
- 11 (月) 財団第1次合格通知発表
- 16 (土) 財団第2次選考試験・選考会議
- 18 (月) 財団第2次合格発表
- 29 (金) 青少年交換
全国大会
- 30 (土)

ガバナー月信 4月号 2025-2026年度 Vol.10

2026年4月10日発行

国際ロータリー第2570地区 地区事務所
〒355-0028 埼玉県東松山市箭弓町2丁目5番14号
ガーデンホテル紫雲閣内

[TEL] 0493-21-2570 [FAX] 0493-21-2571

[mail] d-office@mail.rid2570.gr.jp

[Web] https://rid2570.gr.jp

[ガバナー月信編集委員会] 委員長：菊池俊介 副委員長：荻原之彦
委員：佐藤道晴 八木拓也 細田智也